

## 取組のポイント

## ●働き方改革に向けた機運醸成

## ●業務改善に関するノウハウの横展開

### 大分県保育現場の働き方改革研究会(H30)による行政への提言

保育人材確保のためには、業務負担の軽減や休暇取得などの環境づくりが重要との観点から、研究会を設置し議論 【委員】 保育園長、保育士、社労士 等

提言内容

- ①現場における実践支援（専門家派遣、ICTシステム導入、実践リーダー養成）
- ②園長等管理職の働き方改革の意識醸成
- ③保育従事者の確保
- ④行政事務の効率化ときめ細かな情報共有
- ⑤保育士が相談できる体制の整備
- ⑥社会全体で子どもの育ちや親を支える体制づくり



### 提言を踏まえた県の事業化

事業内容

- ①モデル園へのコンサルタント派遣、ICT補助実践リーダー養成研修の実施 (R1～)
- ②モデル園の成果報告会、ICT展示会、外部講師によるセミナーの開催 (R1～)
- ③保育補助者雇上助成 (R1～)
- ④保育士就業支援サイト「保育おおいた」開設・情報発信 (R2～)
- ⑤保育士経験者による「保育士のお悩み相談」実施 (R2～)
- ⑥イクボスの推進、パパのコミュニティづくり (R1～)

### モデル園へのコンサルタント派遣、ICT補助

モデル3園に対し、保育現場に精通したコンサルタントを派遣。また、保育士の負担軽減のため、モデル園を対象としたICTの導入・改修補助金を創設（補助基準額1000千円 県1/2モデル園1/2）。



モデル園	現状・課題	アクションプラン	効果
Aこども園	①行事回数が多く、その準備が負担 ②保護者への園全体の園便り冊子作成が負担	①卒園式の保育化、休日を利用した全体準備等 ②園便りを園全体の冊子ではなく、クラス毎に作成 ③園長主導ではなく、主幹保育士を中心に取組を実施	①全体準備を、保育士だけではなく栄養士など全ての職員で実施したことで、一体感が強化 ②作成時間短縮 (▲90～180分/月)
B保育所	①経営サイドと職員間のコミュニケーション不足 ②毎日の清掃業務が負担 (90分以上/人)	①意思決定フローをトップダウンから職員会議に転換 ②清掃日を週2回にし、一部清掃を園児と実施(保育化) ※併せて午睡チェック機器を導入し、職員の負担を軽減	①職員より「話しやすい雰囲気になった」との声 ②職員全員の1日の清掃時間短縮 690分→430分 (▲260分)
C保育所	①新設園のため、園長の保育への理念が職員に認知されていない。自分の保育の方向性に迷っている職員がいる	①時間を決めて職員会議を行い、その中で園長の目指す保育についての理念共有を行う	①職員の理念に対する認知度が向上し、保育の方向性が統一されたことで、職員の保育への迷いが和らいだ

### ICT展示会

モデル園の成果報告会にあわせて開催。登降園システム、請求業務、午睡チェック、防犯カメラ、連絡帳アプリなど様々なICTを紹介(6社)。



### 実践リーダー養成研修

■対象  
主任保育士など園運営のリーダー的な保育士等  
(受講者 19名)

■研修内容

- ・全3回実施
- ・働きやすさの構造等の理論や自園でのアンケート実施による課題のピックアップ
- ・課題解決に向けたモデル園への相談
- ・最終回に各園での取組を発表

■主な各園の課題  
休憩時間の確保や非常勤と正規職員とのコミュニケーション円滑化 等